

初等小學

修身入門

木澤成菴編輯

二

176
1
45

書館

大日本教育會書籍館			
一			一
二			
三	三	五	八
冊	號	架	函

前六架

K110.1
41
2

木澤成肅編輯

初等
小學
修身入門

版權免許

中外堂發兌

初等
小學
修身入門卷之二

木澤成肅 編輯

悌道

兄は弟を助け、弟は兄に順ふ、
之を悌の道といふ。
兄弟は、同胞の親しみ、父母子

次ぎたる、天倫なり

○兄弟姉妹の、離るべし、のらざるは、十本の指に如し

○兄弟互に親睦して、保護せらるは、重大なる義務なり

○兄を弟を慈愛し、弟は兄と尊

敬すべし

○兄弟姉妹、互に親睦するは、其家繁昌の基なり

○兄弟相争ふは、一家の亂れあり

○兄弟互に、名譽幸福を祈るべ

し、若し過失あらば、共に補助
せしむべし

○兄弟姉妹、互に遠地に離れ住
むとも、安否を音づれて、親情
を通ずべし

○弟と妹とは、阿はまを加へ、
せむかせよせざるは、兄と姉
との行ふべき禮あり

○兄と姉とを敬ひて、よく事ふ
るは、弟と妹とは、守るべき禮
あり

立志

○人として志しと立てざれば、
百事成ることなし

○棒など願ふて、針など叶ふ、兎
角志は大あるべし

○精神一たび到らむ、何事うな
らざらん

○困難甚しければ、愈^ク勞苦を爲
さば、困窮の爲、志と屈す
るのらび

○危険甚しければ、愈^ク憤^ク發して、
勇氣と顯さばし

○忍耐と快樂を得るの基よて、

何身入門卷二
安逸を、苦勞を得るの本なり
○貧苦に遇はざるは、却て不幸
の人と謂ふべし

○風雪を経過せざれば、春花と
開く處となし

○天才を恃まひて、人力を盡

すべし

○小なる事は、分別せよ、大なる
事は、驚くべからば

○其進むこと鋭き者ハ、其退く
處と速うなり

○惡衣惡食と耻づるものは、共

子謀る子足らず

○盤根錯節に遇ざれば、以て利器と分つおとあし

○道近しや、雖歩まざれば、其所
子至らず、事小なりと雖、爲さ
ざれど、其業と就きことあし

○人總て善と爲すの、阻礙とな
るも、此子克ち、道に従ふと、剛
志といふ

○人の身體あるは、其精神の欲
する所を行ふ爲めなり

○窮困は、思慮と興起し、事業を

創造する母あり、故に富貴の
人よりハ、窮困の人却て業と
成就することあり

○安佚と才徳とは、兩立せざる
と此なり、人已の才徳を賤し
て、安佚と買ふ者あり、悲ひる

か

○一を貫く精神を以て、何事
も成就し得らるべし、憤發切
立するものと、真に英才とい
ふ別よ一種の英才あるよあ
らむ

○眞實に勉強する人を、失敗に逢へば、良師に教訓を受くる可如く、顧み勵む

○豫め此事を爲さずして、志を定めざるものを、必善く爲さざることを得る

○豫め志を定めざるものは、踏つき、困むる事あり

○夫れ志を定むるは、正理剛毅に在るのみ、其志耳目口鼻の欲に向へば、心志を惡鬼と爲る

○其心志義理の正よ向つば心
志を君主とあり、才智は福祥
を益すの宰相となる

○事と始むるの前よ先つ其行
ふづきや否と思量し行ふべ
き事よあらざれば爲さざれば

○事と爲さんと欲するの時は
堪ゆづらざる、辛苦よ遇ふ
と雖も之を爲し成就せざれ
ば置らざれば

生業

○家と治むるの要は勤と儉と

子阿里

○ 勉業の人は、朝寝と晝寐をい
まじむ

○ 儉約は、安泰の基本となり、慈
愛の根源とある

○ 驕奢は、借金の種類まき、貧窮の

媒あり

○ 身分に過ぎたる、福を求めん
ときれば、却て禍を招くべし、
○ 事務を勉強する人は、其功を
積みば、國王の前にお立つた
を得らるべし

○節儉と勤勞とは、人として志
を遂げしめ、徃々富貴を得せ
しむ

○工事を、勤勞はれば、たとひ勞
苦の業たるも、中よ無量の樂
あり

○節儉の要務は、僅少の利よ勉
めんよりは、僅少の費を省く
べし

○人よ損害を加はず、正直よ生
業と爲し、吾身よ屬せざる、金
錢を求むるあられ

○正しき生業と爲す人は、其業卑賤ありとも、天よ耻づることあらず、人よ愧づるあやなし、徒よ手を空しくして、業を勉めざる人は、耻づづきこと甚し。

○人として、一日の飯と食せば、一日の業をなし、其食を得る事と心掛け、苟も手を空しくして、金銭を費さづべし。

○人の一生は、重荷を擔ふて、遠き道よ行くが如し、不自由と

常よ思へば不足なし

○毎日力行して衣食するは、天
下の公法よして人の義務と
盡すといひ、又道理よ通する
ともいふべし

○己の本意を遂げ、畢竟の幸福

を受用せんとするよは、其職
業を行ふべし、其職業を行ん
とせざるは、己の家産、己の智力、
己の性質よ、適當たる業と
擇び、勉むべし

○勤勞の功を積み、富貴を得る

は、眞の富貴なり。専ら富貴を
貪れば、必ず害あり。不義より
て富かつ貴きは、浮雲の如し
○天より人より利を得せしむる
爲より、萬物を生ず。故より、産業を
勉強して、其利益を求むべし。

然れども一人の私するもの
より非ず、天下の公物なり。

修徳

○善は、即ち正直なり。正直は、即
ち善なり。
○善悪を別つ心を、良心といふ。

- 和けば仇なし、忍一ば辱なし、
○ 堪忍は無事長久の基なり
○ 欲心盛ふれば、心常々散亂也
○ 慈悲は家と治むるの、石垣あり

○ 我儘は、身を害するの、矢玉なり

ま

- 口は、禍の門なり、猥りも開く
こやあられ

- 言葉多きは、過失多し、能く慎むべし

○ 常々己の行を省みて、言語と

慎むべし

○人遠き慮りなきときは必ず
近き憂ひあり

○禍福は門なし、唯人の招く所
あり

○小事といつども忽せよ爲す

づららぬ

○千丈の堤は、蝼蟻の穴より潰

ぬ

○己の情欲を制して、之よ克つ
は、大敵よ、勝つよはさる

○其身と脩めんと欲するもの

は、先つ其心と正しくは

○道學なるれば、藝多しといふ
ども、根本たゞず、君子と謂ふ
づらひ

○善と積むの家は、必ず餘慶
あり、不善を積むの家は、必

び餘殃あり

○善と爲せし者は、天之ふ報ゆる
ふ、福を以てし、不善と爲せし
のハ、天之ふ報ゆるふ、禍を以
ては

○鸚鵡よく言ふとも、飛鳥と離

れず、猩々よく言ふとも、走獸
を離さず、人よして禮をけれ
ば、禽獸の心ならずや

初等
小學
修身入門卷の二終

明治十四年九月十七日板權免許
同年十月 出 板

定價八錢

編輯人

東京府士族

木澤成肅

出版人

東京府平民

鈴木寛

發兌人

東京府平民

柳川梅次郎

日本橋區本町
二丁目十番地

麹町三番町十番地

下谷區下谷
西町一番地

初等
小學

修身入門

水澤成壽編輯

三

176
1
45

東

大日本教育會圖書館

一	一	一
二	二	二
三	三	三
冊	號	架

函

K110.1
41
3